

令和3年度SSH生徒研究発表会 奨励賞を受賞！

令和3年度SSH生徒研究発表会第2部（8月20日オンライン開催）において、本校生物部1年の松本敬君（高1）と栗原萌花さん（高1）が発表した「高尾山におけるムササビの分布と環境要因」の研究が奨励賞を受賞しました。

今年度の生徒研究発表会は、コロナ感染症の影響で、8月4日、5日に第1部が神戸市国際展示場で、また第2部が8月20日（金）にオンラインで開催されました。第1部では、全国のSSH指定校が一堂に会し、各校ごとの研究成果を発表しあいました。コロナ感染症の影響で、発表方式が物理・地学・数学系は8月4日、生物・化学系は8月5日のみと変更になりましたが、どの発表もレベルの高い研究ばかりでした。コロナ禍で制限も多かったにもかかわらず、各学校とも創意工夫がみられました。第2部では、第1部で各分野から選ばれた研究の口頭発表と全体を通しての講評、表彰式が行われました。

本校の研究は、高尾山全山におけるムササビの分布を12年間にわたり調べたもので、高尾山全体の分布マップの作成とムササビの分布がモミ・シキミ群集と80%一致すること、標高とは関係性が無いこと、高木の分布と81%一致することを突き止め、年間を通した餌資源の供給と、滑空に必要な高木の存在が環境選択に大きく関係していることをまとめた研究です。ムササビを保全するには、どのような環境を選択しているかを把握することが大切で、本研究がムササビと棲息林の保全につながる基礎研究になればと考えています。またこの研究は生物部員の協力がなければできず、何度も高尾山に登り、近々5回だけでも部員の総歩行距離は840kmでした。今後も調査は続けていきたいと思っています。

受賞した松本君は「中学時代から続けてきた地道な調査が結実し、さらに研究へと深化できたことが評価され、光栄に思う。今後もさらにこの研究を高められるよう努めて参ります！」と語り、栗原さんも「今回大変貴重な体験ができて良かった。今後も精進していきたいと思っています」と述べていました。



発表ブース（神戸）



研究発表する松本君と栗原さん



顧問の岡崎先生と